

5. 慢性腎不全患者の二次性上皮小体機能亢進症における局所PTH採血の検討

(八王子医療C・臓器移植部) 河野 和之,
伊藤 浩嗣, 内山 正美, 松野 直徒,
田中三津子, 加地 紀夫, 玉置 透,
小崎 正巳

(調布病院) 杉崎 弘章

今回我々は、慢性透析患者の難治性二次性上皮小体機能亢進症に対し局所還流血採血を行なった後、上皮小体全摘術および前腕に部分自家移植術(PTx)を施行し、摘出上皮小体重量と局所及び末梢血i-PTHの関連性について検討を行なった。総重量と末梢血i-PTHはそれぞれ平均4.43gと1632pg/mlであった。摘出各小体重量と各小体還流血i-PTHは、腫大した上皮小体より小さい腺が分泌過多の傾向を認めた。PTxにおいて自家移植片を選択する際、小さめの腺を選ぶ傾向にあるが、分泌能と大きさとの相関は、認められなかった。自家移植片の選択に当たって局所採血は、機能診断上有用であると思われた。

6. 過激な持久運動の下垂体系ホルモンに及ぼす影響

(衛生学公衆衛生学教室) 高波 嘉一,
岩根 久夫, 下光 輝一, 勝村 俊仁,
大谷由美子, 垣平 博臣, 木村 博和,
川合ゆかり, 稲生 明美, 藤波 襄二
(八王子医療C・検査科) 石井ユリ子,
中島 英文

【要旨】長時間にわたる激しい身体的ストレスの下垂体ホルモン分泌に及ぼす影響をみるために、トライアスロンをモデルとしてその競技前後の各ホルモンの血中濃度の変化について検討した。 β -エンドルフィン(β -EP), ACTH, プロラクチンは有意に上昇し, LH, FSHは有意に低下した。 β -EPの上昇とACTHの上昇には有意な相関が認められ, β -EPの上昇とプロラクチンの上昇にも有意な相関が認められた。また β -EPおよびACTHの上昇は血中乳酸濃度の上昇と有意な相関が認められ, 両者は運動強度依存性に増加する可能性が示唆された。

7. ベンドレッド症候群の1例

(内科学第三) 小川恵美子, 土田 雅子,
須田 成彦, 金沢 真雄, 本多 光一,
能登谷洋子, 伊藤 久雄
(耳鼻咽喉科学) 新井 雅之
(放射線科核医学) 藤田 賢三, 須田 聡

感音性難聴及び甲状腺腫大を認め、ベンドレッド症候群と考えられる一例を報告する。症例は14歳女性、1歳時より難聴を認め、補聴器装用を開始した。12歳時近医にて甲状腺腫大指摘あり、精査目的にて本院受診す。現症：身長151cm 体重41kg 血圧160-70mmHg, 脈拍92/分, 整, 眼球突出なし, 貧血, 黄疸を認めない。甲状腺腫大4×3cm びまん性軟, 胸, 腹部に理学的に異常を認めない。一般検査成績では、検尿, 末血, 生化学に大きな異常は認めなかった。甲状腺機能検査では, TSH 3.1 μ U/ml, fT_3 4.7 pg/ml, fT_4 1.5 ng/dl と euthyroid であり, 甲状腺抗体も認めない。サイログロブリンは46ng/ml と高値であった。感音性難聴と甲状腺腫よりベンドレッド症候群を疑い, ロダンカリ放出テストを行なった。 ^{123}I の摂取率は4時間にて10.6%であり, ロダンカリ1g服用1時間後の放出率は22%であった。本例は姉にも難聴があり, 家族的に本疾患の発症が考えられた。